



南山大学大学院 国際地域文化研究科

2027

国際地域文化専攻（博士前期課程・博士後期課程）

NANZAN
UNIVERSITY

国際地域文化研究科

今日の国際状況において、人間の行動様式の総体を規定する条件としての文化が、政治や経済と共に、国際社会や諸地域における重要な要素となっていることに注目し、「文化と社会の多元性の認識に基づき、民族集団や人種間の協調を図り、国民国家を越えた文化的・社会的共生を実現すること」を目指します。

博士前期課程

「欧州・南北アメリカ研究領域」「アジア・日本研究領域」の2つの研究領域によって構成され、アメリカ研究センター、ラテンアメリカ研究センター、ヨーロッパ研究センター、アジア・太平洋研究センター、そして社会倫理研究所等とも密接に連携しながら、各研究領域における特定地域研究を基礎とした、学際的かつ多元的な教育・研究を展開します。

博士後期課程

博士前期課程における2研究領域を発展的に統合し、「欧州」「南北アメリカ」「アジア」「日本」の間の相互交流を中心に据えた学際的・領域横断的な国際地域文化研究を行い、グローバル化と地域文化尊重が同時進行する現代社会における様々な状況を読み解く高度な分析力の獲得を目指します。

■ 博士前期課程 ■

欧州・南北アメリカ研究領域

本研究領域は欧州領域と南北アメリカ領域から成り立っており、欧州領域では、主にフランス、ドイツ、スペインに焦点を当て、南北アメリカ領域は、アメリカ合衆国とラテンアメリカを研究対象とします。

思想、文化、文学、歴史、社会、政治、経済、国際関係を扱いながら、総合的な理解を促すカリキュラムを提供し、俯瞰的かつ学術横断的な観点から、多角的なアプローチを試みます。

- 英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語を駆使して、欧州思想・文化・文学・歴史・社会・政治・経済研究を学際的見地に立脚して進展させる。
- 国際経済や日米交流においてアメリカが果たしてきた役割に着目し、多民族・多入種で構成されるアメリカ社会の多元性を念頭に入れた分析を展開させる。
- ラテンアメリカの文化変容の歴史を鳥瞰的に観察し、この地域における文化的・社会的変革の様相と他地域への影響を、構造的及び制度的観点から把握する。



スペイン国立サラマンカ大学正面玄関

専門科目 (欧州・南北アメリカ研究領域)

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| ◇ 欧州文化研究 | ◇ 欧州文学研究 | ◇ 欧州政治研究 |
| ◇ 欧州歴史研究 | ◇ 欧州社会研究 | ◇ 欧州思想研究 |
| ◇ 南北アメリカ文化研究 | ◇ 南北アメリカ文学研究 | ◇ 南北アメリカ政治研究 |
| ◇ 南北アメリカ歴史研究 | ◇ 南北アメリカ経済研究 | ◇ 南北アメリカ社会研究 |
| ◇ 南北アメリカ国際関係研究 | ◇ 南北アメリカ地域研究 | |

アジア・日本研究領域

「アジアの中の日本」という位置付けの下に、日本・中国・インドネシアなどの国々の文化・文学・社会・政治の固有性と多様性を、西洋文明との衝突、社会構造の変容などの歴史的経緯をも踏まえて考察します。各地域の固有性を尊重するとともに、地域内および西洋との交流によって生ずる変化も客観的に検証し、アジアの現状と未来像とを多角的な視座で捉えます。

- 日本語と英語のほか、中国語、インドネシア語などの言語を駆使して、各地域の文化的・社会的・政治的特質ならびに諸言語によって表現された文学の多元的な理解を試みる。
- アジア・日本地域相互間の歴史的関係の理解に基づいて、各地域を閉ざされたものと見なすのではなく相互の関係の中で位置付けることを目指す。
- アジア・日本関係の歴史的推移、文化交流、戦後の緊密な経済関係を理解することによって、そこに含まれている実際の諸問題に焦点を当て、アジアと日本の今後のあるべき関係を考察する。

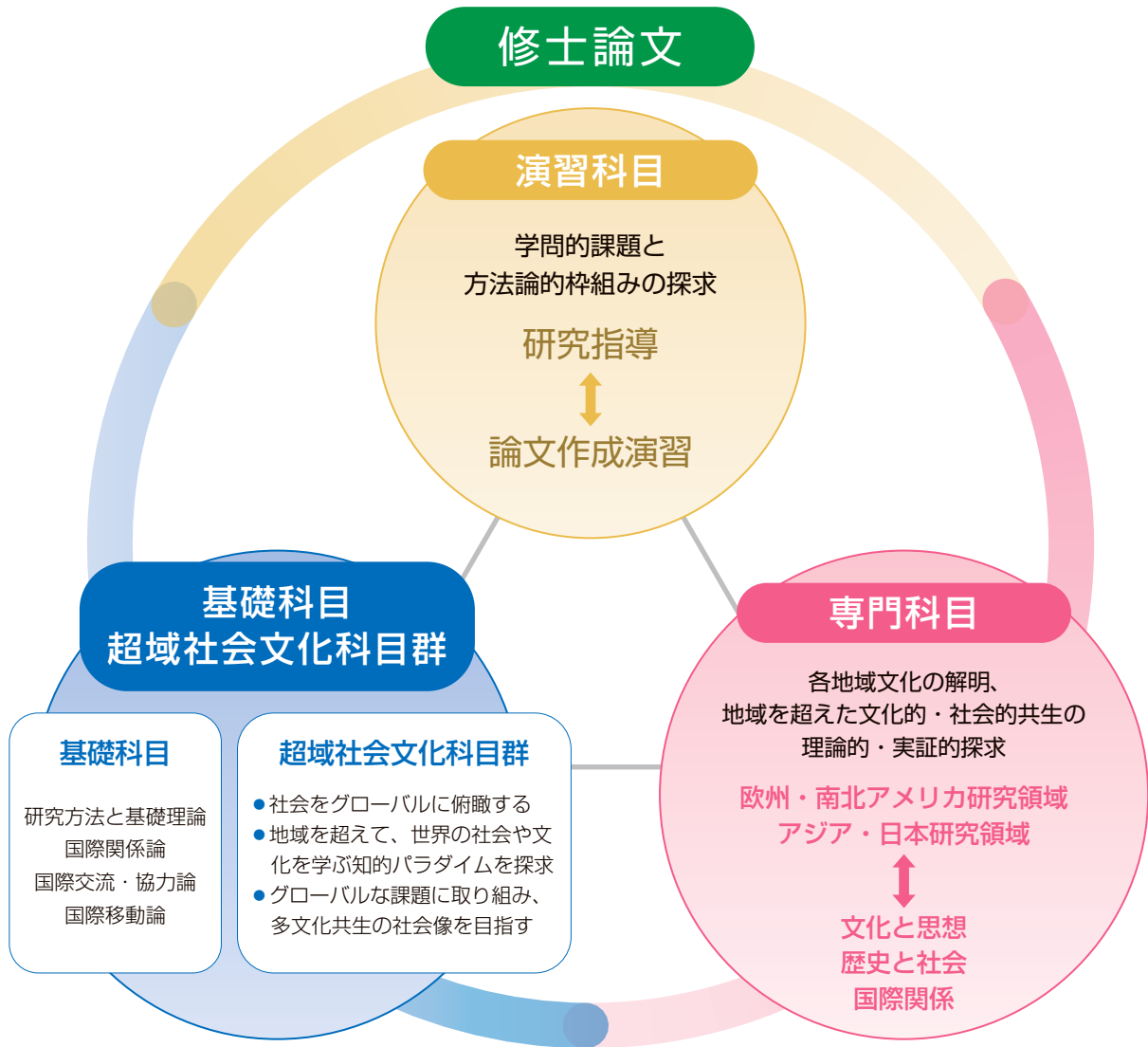


列をなすオートバイ(ジャカルタの交通事情)

専門科目 (アジア・日本研究領域)

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| ◇ アジア・日本文化交流研究 | ◇ アジア・日本歴史関係研究 | ◇ アジア・日本国際関係研究 |
| ◇ 現代アジア・日本社会研究 | ◇ 近代日本歴史社会研究 | ◇ 近現代日本文学研究 |
| ◇ 日本古典文学研究 | ◇ 現代中国社会研究 | ◇ 現代中国文学研究 |
| ◇ 東南アジア社会研究 | ◇ 東南アジア文化研究 | ◇ アジア・日本地域研究 |

カリキュラム構成図



- 超域社会文化科目群**
- ◇言語社会教育研究
 - ◇ジェンダー論
 - ◇エスニシティ論
 - ◇植民地研究
 - ◇比較文化研究
 - ◇国際開発論
 - ◇比較政治学



アメリカ合衆国ロサンゼルス市内の壁画
「E pluribus unum (多様性の中の統一)」



紫式部の邸宅跡として知られる蘆山寺 (京都市上京区)

期待される進路

- 官公庁・地方自治体の国際交流事業部門の職員、多国籍企業あるいは一般企業の海外事業担当者等
- 出版、文化、マスコミ、翻訳などの従事者
- 地方自治体、民間における調査研究部門担当者、外務省専門職員等
- 中等教育、高等教育機関における教員

進学先

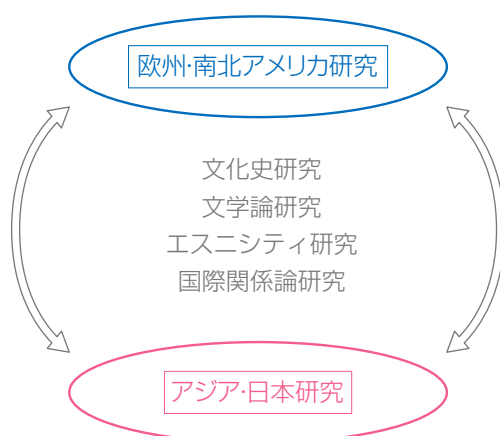
大阪大学大学院国際公共政策研究科、北海道大学大学院文学研究科、名古屋大学大学院国際開発研究科、名古屋大学大学院文学研究科、筑波大学大学院人間総合科学研究科、南山大学大学院国際地域文化研究科、南山大学大学院人間文化研究科、愛知大学大学院中国研究科、京都外国語大学大学院外国語学研究科、ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) 大学院、ロンドン大学キングス・カレッジ

就職先

外務省、出入国在留管理庁 名古屋出入国在留管理局、名古屋市役所、豊橋市役所、豊川市役所、豊田市国際交流協会、国際連合地域開発センター、スズキ、アイシン、日本発条、DIC、TOPPAN、中央図研、ローソン、ユニクロ、台湾丸紅、郵船ロジスティクス、三菱UFJ銀行、十六銀行、長浜信用金庫、社会福祉法人昭徳会、愛知県高等学校(英語科教諭)、愛知県高等学校(国語科教諭)、名古屋市中学校(英語科教諭)、新潟県高等学校(英語科教諭)、兵庫県高等学校(国語科教諭)、愛知工業大学名電高等学校(英語科教諭)、学校法人鈴木学園、豊田工業高等専門学校(一般学科・講師)、上智大学言語教育研究センター(非常勤講師)、南山大学外国語学部(非常勤講師)、金城学院大学国際情報学部(非常勤講師)、名古屋造形大学造形学部(非常勤講師)、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター(助教)、名古屋短期大学(准教授)、関西外国語大学(准教授)

■ 博士後期課程 ■

21世紀の国際社会は、政治・経済・文化の様々な場面において、グローバル化と地域文化への再評価が同時進行する複雑な様相が明らかになっています。そうした状況を受け、国際地域文化研究科博士後期課程では、博士前期課程の二つの研究領域にまたがる有機的な学修で深められた「文化と社会の多元性の認識」や「国民国家を超えた文化的・社会的共生」という視点を更に推し進め、国際社会の多元化に対応し、地域を超えた文化的・社会的共生のダイナミズムを理論的かつ実証的に解明するための学際的・領域横断的な国際地域文化研究を目指します。



専門科目

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| ◇文化史A(文化交流史研究) | ◇文化史B(近現代史研究) | ◇文化史C(物質文化研究) |
| ◇文学論A(文学・文化研究) | ◇文学論B(文学研究) | ◇文学論C(言語・文化研究) |
| ◇エスニシティ研究A(人種・民族研究) | ◇エスニシティ研究B(宗教・社会研究) | ◇エスニシティ研究C(多民族社会研究) |
| ◇国際関係論A(外交史研究) | ◇国際関係論B(安全保障論) | ◇国際関係論C(国際経済論) |

想定される進路・人材

- 国内、国外における教育機関、研究機関での研究者
- 国際的、学際的視野を持った、先導的高度専門職業人

研究者紹介

前：博士前期課程
後：博士後期課程

欧州・南北アメリカ研究領域

< 研究指導教員 >

教授 ESCANDÓN, Arturo

前

[専攻分野：外国語としてのスペイン語教授法]

(後 研究指導補助)

◆研究テーマ：〔長期研究〕スペイン語教授法
〔短期研究〕文化・歴史活動理論

◆主な著作：(1) "Writing in a foreign language as a science of language or grammatology" (単著) Pedagogy, Culture & Society, 22 vol. (1) (2014年)、(2) "La dialéctica de lo concreto en el Chile colonial: del Reino de Chile al Flandes indiano" (単著) Cuadernos CANELA, 29, (2018年)、(3) Filosofía de la enseñanza de lenguas extranjeras (単著) Liberas Press (2018年)

教授 太田 達也 Tatsuya Ohta

前後

[専攻分野：ドイツ語教育研究、外国語教育学、応用言語学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕日本におけるドイツ語教員養成の現状把握と改善に向けての提言、タスク・内容中心型の外国語授業におけるインターアクション

◆主な著作：(1) Die Wirkung von Fehlerkorrektur auf Überarbeitungsprozesse und -produkte beim fremdsprachlichen Schreiben. Eine empirische Studie unter japanischen Deutschlernenden. (単著) ludicium. 2015年、(2) 『ニューエクスプレスプラズ ドイツ語』白水社、2018年、(3) Wissenstransfer durch Deutsch als Fremdsprache. Eine internationale Perspektive. (共著) Peter Lang, 2013年。

教授 牛田 千鶴 Chizuru Ushida

前後

[専攻分野：ラテンアメリカ地域研究、教育開発論]

◆研究テーマ：〔長期研究〕移民教育・マイノリティ教育・多文化教育
〔短期研究〕南米パラグアイにおける異文化間複言語教育の展開

◆主な著作：(1) 『ラテンアメリカ現代史Ⅲーメキシコ・中米・カリブ海地域ー』(共著) 山川出版社(2006年)、(2) 『ラテンアメリカの教育改革』(編著) 行路社(2007年)、(3) 『ラティノのエスニシティとバイリンガル教育』(単著) 明石書店(2010年)、(4) 『南米につながる子どもたちと教育ー複数文化を「力」に変えていくためにー』(編著) 行路社(2014年)、(5) 『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』(共著) 新評論(2021年)

教授 安原 毅 Tsuyoshi Yasuhara

前後

[専攻分野：国際経済学、開発経済学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕ポスト・ケインズ派マクロ経済学、開発経済学
〔短期研究〕ラテンアメリカ諸国の輸出促進政策、新自由主義革命の批判的検討

◆主な著作：(1) 『メキシコ経済の金融不安定性 金融自由化・開放化政策の批判的研究』(単著)、新評論(2003)、(2) "Manufacturing sector performance in Mexico, under balance of payments-constrained growth", Problemas del Desarrollo (Instituto de Investigaciones Económicas, UNAM), Mexico, vol.39(2008年). pp.26-46、(3) "Reinterpretar la teoría monetaria moderna: generación de liquidez y emisión de moneda fiat," *Ola Financiera* vol.14, pp.155-171(2021年)

< 研究指導補助教員 >

准教授 小阪 知弘 Tomohiro Kosaka

前

[専攻分野：現代スペイン演劇、比較文学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕ガルシア・ロルカの前衛劇における演劇理論
〔短期研究〕ミゲル・デリーベスの都市小説における空間概念

◆主な著作：(1) 『ガルシア・ロルカと三島由紀夫 二十世紀 二つの伝説』(単著) 国書刊行会(2013年)、(2) 『村上春樹とスペイン』(単著) 国書刊行会(2017年)、(3) 『スペイン都市の詩学』(単著) 国書刊行会(2020年)、(4) 『「ドン・キホーテ」とともに』(共著) 行路社(2025年)

< 講義担当者 >

准教授 大井 由紀 Yuki Oi

前

[専攻分野：移民研究]

◆研究テーマ：〔長期研究〕境界線形成とデモクラシーの限界
〔短期研究〕越境移動と国家形成の関係(米・中・日を中心として)

◆主な著作：(1) Japan Viewed from Interdisciplinary Perspectives (共著) (2015年)、(2) 『移住労働と世界的経済危機』(共著) (2011年)、(3) 『ナショナリズムとトランスナショナリズム』(共著) (2010年)

教授 永田 智成 Tomonari Nagata

前

[専攻分野：スペイン政治史、比較政治学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕独裁体制から民主主義体制への移行とデモクラシーに関する研究
〔短期研究〕自治州国家体制と連邦制の逆説論

◆主な著作：(1) 『フランコ体制からの民主化ースアレスの政治手法』(単著) 木鐸社(2016年)、(2) 『連邦制の逆説ー効果的な統治制度か』(共著) ナカニシヤ出版(2016年)、(3) 『新・世界の社会福祉4 南欧』(共著) 旬報社(2019年)、(4) 『スペイン・ポルトガルの歴史研究入門』(共著) 山川出版社(2024年)

教授 戸田 由紀子 Yukiko Toda

前後

[専攻分野：アメリカ文学、カナダ文学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕英語圏マイノリティ文学研究
〔短期研究〕21世紀北米とアジアの英語文学における多文化主義と人種のカルチュラル・ポリティクス

◆主な著作：(1) The Bakhtinian Concept of Chronotope and Toni Morrison's Novels. 単著、2009年、英宝社、(2) 『新たなるトニ・モリスン その小説世界を拓く』、共著、2017年、金星堂、第二章「バラとセクシュアリティー「スーラ」とテネシー・ウィリアムズの『バラの刺青』」、(3) 「オバアチャンの『笑い』：ヒロミ・ゴトの『コーラス・オブ・マッシュルーム』」『カナダ文学研究』、日本カナダ文学会、第25号、2017年12月、(4) 『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』、共著、2006年、世界思想社 第7章「アフリカ系アメリカ文学」

教授 山岸 敬和 Takakazu Yamagishi

前後

[専攻分野：アメリカ政治、公共政策]

◆研究テーマ：〔長期研究〕政策過程、政策史
〔短期研究〕日米の医療政策、高等教育政策

◆主な著作：(1) *Health Insurance Politics in Japan* (Cornell University Press, 2022)、(2) 『アメリカ医療制度の政治史』名古屋大学出版会、2014年、(3) *War and Health Insurance Policy in Japan and the United States* (Johns Hopkins University Press, 2011)

教授 吉澤 英樹 Hideki Yoshizawa

前

[専攻分野：フランス語圏文学・文化]

◆研究テーマ：〔長期研究〕フランスにおける文学の社会的機能の解明
〔短期研究〕アール・ソシアルの系譜として見る1930年のフランス文化

◆主な著作：(1) 『ブラック・モダニズムー間大陸の黒人文化表象におけるモダニティの生成と歴史化をめぐる』編著、未知谷(2015)、(2) 『混沌の共和国 「文明化の使命」の時代における渡世のディスクール』共編著、ナカニシヤ出版(2019)、(3) *Malraux vu du Japon : Roman, essai et arts.* 共編著、Classiques Garnier(2023)

准教授 森山 貴仁 Takahito Moriyama

前

[専攻分野：アメリカ政治史、メディア研究]

◆研究テーマ：〔長期研究〕保守主義とアメリカ民主主義
〔短期研究〕マイノリティ保守の形成

◆主な著作：(1) *Empire of Direct Mail* (University Press of Kansas, 2022)、(2) "Black Trumpists," *Nanzan Review of American Studies* 44 (2022)、(3) 「サンベルトの青い郊外」『アメリカ太平洋研究』第21号 (2021年)

准教授 手塚 沙織 Saori Tezuka

前

[専攻分野：人の国際移動、移民政策、国際政治経済学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕高度外国人材の移動と技術覇権
〔短期研究〕高度外国人材をめぐる国内政治・国際関係

◆主な著作：(1) 『移住労働者とディアスポラ政策ー国境を越える人の移動をめぐる送出国のパスベクティブ』(共著) 筑波大学出版会(2022年)、(2) 『複数国籍ー日本の社会・制度的課題と世界の動向』(共著) 明石書店(2022年)、(3) 「米中間の高度人材をめぐる攻防と技術覇権の行方」『CISTEC Journal』第200号(2022年)

アジア・日本研究領域

< 研究指導教員 >

教授 江口 伸吾 Shingo Eguchi

前後

[専攻分野：現代中国政治、政治社会学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕現代中国政治
〔短期研究〕現代中国のガバナンス研究

◆主な著作：(1)『中国農村における社会変動と統治構造—改革・開放期の市場経済化を契機として—』(単著)国際書院(2006年)、(2)『現代中国の社会ガバナンス—政治統合の社会的基盤をめぐって—』(単著)国際書院(2021年)、(3)『中国と日本における農村ジェンダー研究—1950年・60年代の農村社会の変化と女性—』(共著)晃洋書房(2024年)

教授 MERE, Winibaldus Stefanus

前

[専攻分野：国際法、企業と人権]

◆研究テーマ：〔長期研究〕人権に関する企業の社会的法的責任
〔短期研究〕企業(組織・アクターとして)の人権デューデリジェンスの可能性◆主な著作：(1) "Recent Trend Toward a Balanced Business and Human Rights Responsibility in Investment Treaties and Arbitrations"(単著)、*International Journal on Human Rights and Business*, Vol.4, No.2(2020年)、(2) *Hominis Dignitati: An Interdisciplinary Approach*(共編著)Logos Publications(2022年)、(3) "Disruptions and Corporate Human Rights Responsibility: A Flashback to Covid-19"(共著)、*Journal of Southeast Asian Human Rights*, Vol.6, No.2(2022年)

教授 中 裕史 Hiroshi Naka

前

[専攻分野：中国文学]

(後 講義担当)

◆研究テーマ：〔長期研究〕中国現代文学
〔短期研究〕四川省の作家等に着目した郷土文学研究

◆主な著作：(1)『現代中国への道案内』(共著)白帝社(2002年)、(2)『アジア市場の文化と社会』(共著)風響社(2005年)

教授 辻本 裕成 Hiroshige Tsujimoto

前

[専攻分野：日本古典文学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕物語・日記文学の創造と享受
〔短期研究〕鎌倉時代医事説話の研究

◆主な著作：(1)『「腹の虫」の研究—日本の心身観をさぐる』(共著)三弥井書店(2012年)、(2)『中世(知)の再生—『月庵醉醒記』論考と索引—』(共著)三弥井書店(2011年)、(3)『源氏物語研究集成第12巻 源氏物語と王朝文化』(共著)風間書房(2000年)

< 研究指導補助教員 >

准教授 岸川 俊太郎 Shuntaro Kishikawa

前

[専攻分野：日本近現代文学]

◆研究テーマ：〔長期研究〕明治期から昭和戦前期にかけての日本近代文学研究
〔短期研究〕永井荷風、谷崎潤一郎を中心とする近現代作家の異文化体験に関する比較文学的研究

◆主な著作：(1)『大正後期から昭和初期における芥川龍之介と谷崎潤一郎—永井荷風『雨瀟瀟』を媒介として—』『芥川龍之介研究』7号(2013年)、(2)『毎月見聞録』の時代—大正期荷風文学と同時代の関わり—『日本近代文学』91集(2014年)、(3)『一九二〇年代における日本文学の国際的位置—谷崎潤一郎のフランス語訳作品を通して—』『日本文学』65巻9号(2016年)

< 講義担当者 >

教授 吉田 信 Makoto Yoshida

前

[専攻分野：国際関係論]

◆研究テーマ：〔長期研究〕国際社会における移動の制度化と人の管理
〔短期研究〕植民地旅券制度の構築と運用◆主な著作：(1) *When East Asia Meets Southeast Asia: Presence and Connectedness in Transformation Revisited*(共著)World Scientific Pub Co Inc, 2022、(2)『史料が語る東インド航路: 移動がうみだす接触領域』(共編著)勉誠出版(2021年)、(3)『アジア法整備支援叢書 インドネシア』(共著)旬報社(2020年)

教授 松田 京子 Kyoko Matsuda

前後

[専攻分野：日本近現代史、文化交流史]

◆研究テーマ：〔長期研究〕近代日本と東アジア地域との文化交流史研究
〔短期研究〕植民地統治下の台湾先住民をめぐる文化政策研究

◆主な著作：(1)『帝国の視線—博覧会と異文化表象—』(単著)吉川弘文館(2003年)、(2)『帝国の思考—日本「帝国」と台湾原住民—』(単著)有志舎(2014年)、(3)『一九三〇年代の台湾原住民女性をめぐる統治実践—「助産婦」養成事業を中心に—』『南山大学日本文化学刊論集』第19号(2019年)

教授 森山 幹弘 Mikihiko Moriyama

前後

[専攻分野：文化研究、インドネシア文化]

◆研究テーマ：〔長期研究〕インドネシア文化史
〔短期研究〕インドネシアの言語政策◆主な著作：(1) *Sundanese Print Culture and Modernity in 19th-century West Java*(単著)Singapore University Press(2005年)、(2) "Multilingual Societies and Language Policy in Indonesia", *Literacies, Culture and Society towards Industrial Revolutions 4.0*(共著)Nova Science Publishers(2021年)、(3) *Words in Motion: Language and Discourse in Post-New Order Indonesia*(共編著)NUS Press(2012年)

教授 坂井 博美 Hiromi Sakai

前

[専攻分野：日本近現代史、ジェンダー史]

◆研究テーマ：〔長期研究〕近現代の日本における労働・家族・ジェンダー
〔短期研究〕家事労働者からみる近現代日本の労働・家庭・ジェンダー・階級構造に関する研究、戦後日本における性売買構造の研究

◆主な著作：(1)『「愛の争闘」のジェンダー力学—岩野清と泡鳴の同棲・訴訟・思想—』(単著)ベリかん社(2012年)、(2)『労働基準法制定過程にみる戦後初期の「家事使用人」親—労働・家庭・ジェンダー—』『ジェンダー研究』第16号(2014年)、(3)『家事使用人雇用からみる近代家族—1950年代・獅子文六の家庭を対象として—』『日本史研究』第741号(2024年)

教授 張 玉玲 Yuling Zhang

前

[専攻分野：文化人類学、華僑華人研究]

(後 研究指導補助)

◆研究テーマ：〔長期研究〕国家、移民とエスニシティの相互関係
〔短期研究〕福建出身移民の移住・定住原理に関する研究

◆主な著作：(1)『華僑文化の創出とアイデンティティ』(単著)ユニテ(2008年)、(2)『南京町と神戸華僑』(共著)松籟社(2015年)、(3)『アジア遊学215 東アジア世界の民俗—変容する社会・生活・文化』(共著)勉誠出版(2017年)

准教授 間瀬 朋子 Tomoko Mase

前

[専攻分野：インドネシア地域研究、社会経済論]

◆研究テーマ：〔長期研究〕インドネシア民衆生業の変容
〔短期研究〕インドネシア東部・境界海域に生きる人びとの生業

◆主な著作：(1)『民衆生業の再編—インドネシア・ジョグジャカルタ特別州の学生街の事例—』『白山人類学』第22号(2019年)、(2)『小さな民のグローバル学 共生の思想と実践をもとめて』(共著)上智大学出版(2016年)、(3)『現代インドネシアを知るための60章』(共編著)明石書店(2013年)





南山大学大学院博士後期課程奨学支援制度

博士後期課程に在学する学生を対象に、授業料等を減免し、博士の学位取得を支援することを目的とした「南山大学大学院博士後期課程奨学支援制度」があります。資格審査その他の詳細は、入試要項(※)をご確認ください。

<制度の概要>

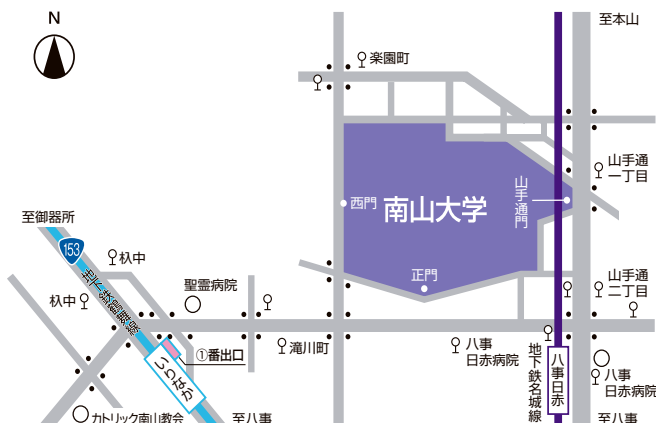
支援内容	授業料および施設設備費の半額を減免する
支援期間	1年間 *ただし、同様の手続きを行うことにより、翌年も引き続き支援を受けることが可能(年度毎に審査有)

※入試要項はこちら▶



アクセスマップ

- 地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩約8分
- 地下鉄鶴舞線「いりなか」駅1番出口より徒歩約15分



南山大学

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
<https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/>

入試に関する問い合わせ先

入学センター

Phone(052)832-3119 Email ml-grad@nanzan-u.ac.jp

履修内容等に関する問い合わせ先

国際地域文化研究科事務室

Phone(052)832-4327